

こども読書週間イベント

4月29日(火・祝)

点字を打ってみよう！

10:00～12:00

図書館3階 おはなしのへや

文字を音に換える

10:00～12:00

図書館3階 録音室

5月6日(火・祝)

こども絵本くじ

10:00～16:00

ガラガラくじで借りる絵本がきまるよ！
何がでるかな？

図書館3階



小学生以下対象 1人1回

(利用者カードが必要です)

5月10日(土)

腹話術と楽しい手品

9:50～10:30

文化フォーラム春日井 2階会議室

ワクワク！よみきかせ駅伝

10:30～12:00

図書館3階 おはなしのへや

ブラックパネルシアター

14:00～14:40

文化フォーラム春日井2階 会議室

春日井市図書館 電話：(0568)85-6800

〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5丁目44番地 文化フォーラム春日井 3・4階

開館時間：午前9時～午後8時 休館日：月曜日（休日の場合はその直後の休日でない日）



おすすめ本紹介

嘘



エイプリルフールにちなんで「嘘」をテーマに選んでみました。「嘘つきは泥棒の始まり」とか「嘘からでたまこと」なんて諺もあったりします。小説や物語も嘘で描かれた世界と言えるかもしれませんね。嘘とは何か。どんな時に嘘をつき、どんなことが嘘になるのか。嘘について考えることは人間を考えることにもつながりそうです。



『小説 四月は君の嘘』

新川 直司/原作 時海 結以/著 講談社 913/コウ/15

「美しい嘘で夢を見せるのが、芸術家、エンターテイナーよ」と、かをりちゃんは言います。生きるのには美しい夢が必要と語る彼女は、あるピアニストに魅了されますが、そのピアニストはある日を境にピアノが弾けなくなってしまいます。彼の音を取り戻すために、かをりちゃんは彼を伴奏者に指名します。

周りの人が語る彼の物語は切なく、生きる意味を考えさせられます。

『架空の犬と嘘をつく猫』

寺地 はるな/著 中央公論新社 F/テラ/17

「この家にはまともな大人がひとりもない。」という出だしで始まるこの本の主人公は小学3年生。どんな家族でどんな家庭環境なのか。読み進めていくうちに大変であることがわかります。そんな中で彼が心を保つためにやっていたことが、想像の犬をなでること。そして、自分の母の世界を守るために、弟になりきって手紙を書くこと。成長した主人公は問います。「現実にはないなにかを心の拠りどころとして生きることは、むなしいことでしょうか」と。あなたはごどう思いますか？



『やさしい猫』

中島 京子/著 中央公論新社 F/ナカ/21

スリランカ人のクマさんと主人公の母親ミユキさんは、震災のボランティアで知り合います。1年後に2人は再会し、結婚の約束をしますが、外国人であることで周りから反対されます。そしてクマさんも失業したことを言い出せず、本心を隠してミユキさんから離れようとします。そんなゴタゴタの間に在留資格がきれてしまい、強制送還されそうになるクマさん。家族になるために、世間や法律と戦う姿に心打たれる物語です。



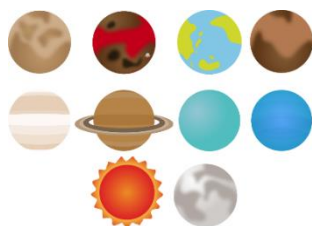
おすすめ本紹介 世界のかたち



人間はどこから来たの？地球ってどうやって出来たの？宇宙はどうなっているの？

この世界には不思議がいっぱいで、その不思議なものたちで世界は形作られています。

科学というとちょっと難しそう。でも素敵なイラストや心温まる物語で、私たちを科学の世界に連れて行ってくれる本があるのです。



『世界のかから図鑑』

古河 郁/著 KADOKAWA 404/セ/24（高蔵寺）

知っているようで知らないことってたくさんありますよね。

天文学、物理学、生物学、数学…学校で習ったはずなのに知らないことばかり。

どうせなら知っていたほうが楽しいかな、と学術書をのぞいてみたら、難解な言葉や理論ばかりで頭が痛くなりそう。でもこの図鑑は美しいイラストのおかげで、少しだけ分かった気にさせてくれる不思議な本です。

読み終えた後は、きっと昨日までとは違う自分になっているはず！

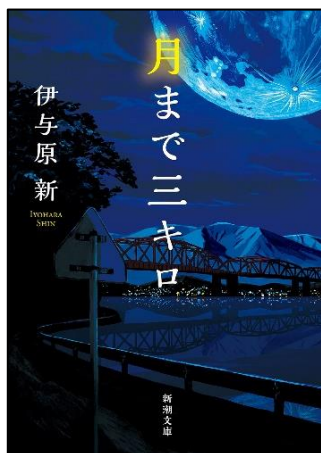
『ドミトリーともきんす』

高野 文子/著 中央公論新社 726.1/ト/14

世界の“かたち”をとことん追求する科学者っていったいどんな人たちなのでしょう？「ドミトリーともきんす」には、朝永振一郎、湯川秀樹、牧野富太郎、中谷宇吉郎の4人の学生が住んでいます。後にすばらしい功績を残す研究者たちです。

寮母のともこさん、娘のきんこさんと彼らの交流をユニークな漫画で描きながら科学者たちの言葉や文章を紹介する、ちょっと変わった読書案内です。

4人の研究に興味を持つ第一歩になるかも知れません。



『月まで三キロ』

伊与原 新/著 新潮社 F/イヨ/18

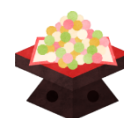
昨年、俳優窪田正孝さん主演のドラマ「宙わたる教室」に感動した方も多くいらっしゃるでしょう。原作者である伊与原新の作品は、どれも根底に自然科学があります。ミステリーあり、感動ありの作家です。

「月まで三キロ」では、6人の主人公が思いがけない様々なかたちで自然科学に出会います。どれも胸をうつ感動の物語です。

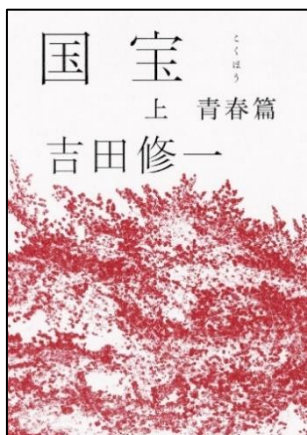
いろいろなことが起こるこの世界も決して悪くないな、と思わせてくれる一冊です。



おすすめ本紹介 言葉と映像



小説を読んでいると、いつのまにか主人公の顔や声、彼らがたたずむ景色などが頭の中に映像のように現れることがあります。その映像に助けられ苦も無く読み進められる…。そんな小説に出会うと幸せな時間を過ごすことができます。あなたも映像のある小説をぜひ探してみてください。



『国宝』 上・下

吉田 修一/著 朝日新聞出版 F/ヨシ/18-1,2

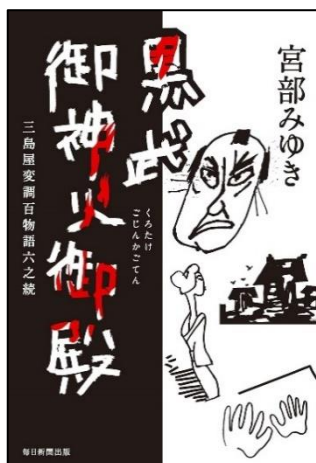
一見取っつきにくい雰囲気を持つこの小説は、第三者の語りが入ることで読みやすくなっています。優雅さだけではない芸の世界の中で、主人公の青年がどう成長していくかを場面ごとに鮮やかな映像として読み進めて行くことができます。

華やかな歌舞伎の演目、それぞれの舞台を目の前で観ている感覚があります。主人公の芸に対する思いは圧巻です。

『破果』

ク・ビョンモ/著 小山内 園子/訳 岩波書店 929.1/ハ/23

なによりその表紙の映像に引き込まれた小説。そこに描かれている「手」だけで主人公の思いが伝わってきます。鮮やかな深紅のマニキュアは、主人公の強い意志を表して切なくなるほどです。「無用」という名の年老いた愛犬が登場しますが、この物語にいっそうの深みを与えてくれます。



『黒武御神火御殿』三島屋変調百物語六之続

宮部 みゆき/著 毎日新聞出版 F/ミヤ/19

あなたが子どもだった頃。夏休みに訪れた祖父母の家の中にあっただこへ続くともわからない薄暗い廊下。ふすまを開けたら何かがいるかもしれない“開かずの間”。そんなところで1人途方に暮れる…こんな思い出を持っている人にはおすすめの物語。

映像とともに恐怖・孤独といった感情もたっぷりと味わえる小説です。一度読めば、その映像が何度も現れて暫くは忘れられなくなります。